

行政視察報告書

委員会名（会派名）	議会運営委員会	報告者	小林、長井、堀
視察日程	令和元年10月28日（月）～ 10月30日（水）		
調査事項 及び 視察地	① 「子ども議会」について	岐阜県 岐阜市	
	② 「議会改革（地域課題懇談会）」について	岐阜県 可児市	
	③ 「市民フリースピーチ制度」について	愛知県 犬山市	
参加議員（委員）	大岩 勉、小林 由明、丸山 吉朗、齋藤 信行、渡邊 雄三、タナカ・キン、長井 由喜雄、堀 勝重		
	<p>【調査目的・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施にあたり、議会での議論にはどのようなものがあったか ・事業にはどのような課題があるか ・事業に取り組んで以降、市民の市政への関心の高まりや、投票率、立候補者数の増加、議員の活動など、市民や議会の変化はどうか <p>【所感】</p> <p>平成16年定例会における一般質問をきっかけに取り組みがはじまり、令和元年度で16回目となる継続事業。所管課は当初教育委員会であったものの、福祉関係部署である「子ども未来部」を設立したことに伴い移管された。</p> <p>子ども議会における質問答弁は、所管課職員が議会発言などから選定し、小学生でも理解できるように小学生とともに相談しながら形にしている。目指す成果は「体験」ということになっており、キャリア教育の一環と考えていることがうかがわれる。</p> <p>事業課題としては、議会事務に関わることが多いうえ、学校との連携が必要にも関わらず、主管が福祉関係部署ということで事業推進に難しさがあるようだ。また、参加者も年々確保が難しくなっており、かつ、まちの課題や未来について話しあうという趣旨からも、小学生ではなく中学生でおこなうべきだという声があがっている。</p> <p>議会改革の目的は、議会の権能の発揮を通じて市民の福祉の増進を図ることと認識しているが、本事業は議会改革ではなく小学生のキャリア教育の一環ということに重点をおいており、本事業が及ぼした市民や議会への影響については調査がなされていなかった。</p> <p>子どもたちが議会で、こうした体験をすることを目の当たりにしている保護者もいるわけであるから、選挙や議会への関心が高まってもよさそうなものではあるが、数字としては表れていないとのことであった。</p> <p>また、平成16年から数えずでに16回の開催を経ており、こうした事業に参加した小学生は、社会人となって活躍している者もいるはずである。彼らのキャリア形成にどのような影響を及ぼしたのかの調査も期待したい。</p> <p>このように、事業を継続することで見えてくるデータもあるだろうことから、特に小学生中学生への事業実施がどのような影響をその後のキャリア形成に及ぼすのかの視点は、燕市の事業においても必要でないかと考えている。</p>		

【調査目的・内容】

議会運営を行う立場から、可児市における議会改革のうち、地域課題懇談会を開かれていることに関心を持ち、燕市において参考となる内容をお聞きした。

可児市議会は、議会ホームページや議会広報紙はもとより「議会フェイスブック」を平成25年8月から開設し、平成10年からはケーブルテレビを利用した「一般質問のインターネット配信」、さらに常任委員会のネット配信を行っている。さらに「子ども議会」を小学校の社会科授業の一環としての議会の見学、模擬議会を議会も協力して行ってきた。また議会報告会も平成24年から取り組み、現在は毎年1回以上開催することを続けている。

これらの取り組みに加え、「高校生議会・地域課題懇談会」を平成26年7月から始めた。燕市議会運営委員会として市民の声を聴く、地域の声を議会に生かすこの取り組みに関心を持ち、現状について伺った。

【所感】

地域懇談会の中身として、大別して2つの取り組みを行っていた。ひとつは「高校生議会等」で、不定期開催ながらも、これまで医療関係者、金融関係者との意見交換をはじめ若い世代に積極的に議会としてもアクションを起こし、「18才選挙権」や「若い世代が主役のまちづくりの実現」をテーマに地域懇談会を開催されてきた。

また、「高校生議会」を議場や委員会室を使って行い、若者たちの声を積極的に拾っている。「高校生議会」の中身も様々で、グループディスカッションにより議論を行ったり発表するということから、大河ドラマを契機とした可児市のPRや集客についても高校生の意見を積極的に拾うスタンスで臨んでいる。

② 他自治体の議会も住民との距離感を少しでも縮められるよう試行錯誤されていることと思う。燕市議会を振り返ると、現在の媒体としての「つばめ市議会ノートブック」を使って市民との距離感を縮める取り組みも行っているが、「議会」として積極的に市民と交流や懇談を行う機会を模索するということまでは行っていない。

可児市では地域懇談会の目的として「高校生が大学進学や就職によって市外へ流出する前に、様々な職業や経験がある大人と接する機会を設けることによって、地域に対する愛着や当事者意識を高めること、地域課題の解決に必要な広い視野、高い専門性を身に付けてもらい可児市の持続的な発展に寄与する人材の育成を目的とし、「地域再生の一環」としてこの事業を行っているとのことだった。議会としてのスタンスが明確にされたうえ、実践に移す姿勢は素晴らしい。

高校生議会は対象校を可児高校のほか可児工業高校、東濃実業高校の3校を対象に行なってきたが、他の高校も対象とすべく拡大を図っているとこのことだった。

地域懇談会に位置づけられるもうひとつは「ママさん議会等」で、子育て世代の意見の反映を目指して平成28年から開催している。このときの進行役は「子育ての次世代」となる高校生に務めてもらったそうで、高校生議会の経験も生かしている。「ママさん議会」開催においては託児所の開設も行い、ワークショップ、意見交換、議場での発表と、「議員」だけではなく市民代表の議決の場である「議場」も参加者に身近に感じてもらう姿勢が貫かれている。

視察をふまえ、燕市議会としても新たなアクションを起こし、市民との距離感を縮めるとともに、市政が市民のためにあることを実感してもらう取り組みに着手する必要性を強く感じた。

【調査目的・内容】

犬山市での「市民フリースピーチ制度」は、平成30年3月定例会から新しく始めた制度であり、平成30年に3回開催している。(発案者は、当時のピアンキ議長)

市民フリースピーチの内容は、市民が議場で犬山市政に関する発言を5分以内で議員(議会)に対し行うもので、発言内容について言いつばなしではなく、議会として対応するものである。

市民フリースピーチの開催は、議会会期中に行うこととし、3月、6月定例会の18時30分からの開催と、9月定例会の日曜日10時に開催している。(3回開催し、20名の発言があった。)

発言者は、市内在住・在勤・在学なら誰でも可能であり、1回に7名を定員としている。スピーチ後は、全員協議会で対応を協議し、結果を発言者へ議会が回答する。

成果としては、第2回フリースピーチ開催後、議長名で犬山市長宛てに、フリースピーチ発言に基づく申し入れ書を提出。その後、市長から議長あてに申し入れ書に沿った回答が提出されている。

③

【所感】

議会や選挙への関心を持ってもらうと言う点では、糸口となる取組みであると思う。

説明の中で、「議員に相談しても話を聞いてくれない。そんな議員はいらないのではないか。と言った発言者の声もあった」とのことであったが、議員1人1人が、日頃から市民と市政に対しての会話や、議員が市民に対して報告会や懇談会等を行っていれば、こういった取組みが本当に必要なのかどうか考えさせられた。果たして燕市にマッチングするのかと考えると、疑問の念が湧いてきたところである。

もしも、この取組みを燕市で実施する方向で考えるとしたら、慎重かつ十分な調査研究が必要ではないかと考える。

【視察の様子】

① 岐阜市



② 可児市



③ 犬山市

